平成２５年度研究成果報告書《平成２５年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	２５	都道府県・指定都市名	滋賀県
学校名 （児童数）	ながはましりつ　ながはましょうがっこう 長浜市立　長浜小学校　（９６９人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：滋賀県長浜市高田町９－９
電話番号：０７４９－６２－００７０　ＦＡＸ：０７４９－６３－９９２５
研究内容等を掲載しているウェブサイトのＵＲＬ：http://www.biwa.ne.jp/~nagasyo/hutaba2/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：２小学校
○研究対象教科等：算数
○研究のキーワード：教材研究の充実，つまずきの実態把握と分析，指導と評価の一体化，つなぎ・かえす・広げる発問の工夫，学び合いの活性化
○研究成果のポイント：
全国学力・学習状況調査，長浜市統一学力調査等の結果を組織的体制の下，独自に分析することにより，教材研究を深め，児童のつまずきを理解し，指導改善の手立てを明確にして焦点化を図った。さらに，適用問題を授業評価と次時の改善を目指して位置づけ，指導と評価の一体化を図ったことにより，児童の算数科における言語活動が活性化し，思考力，表現力の向上がみられた。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

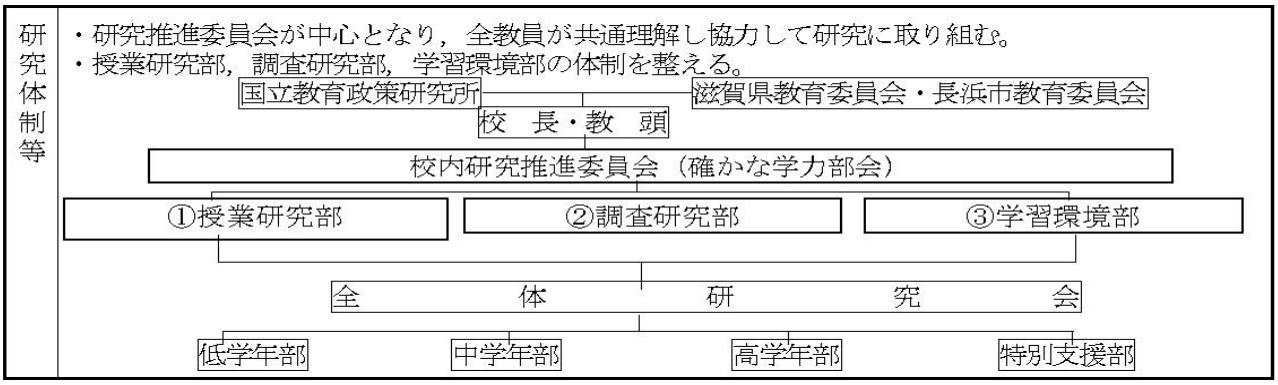
互いに認め合い，支え合い，学び合う「授業」の創造
～一人一人が考えをもち，「つなぎ」「かえす」「ひろめる」学習を目指して～

（２）研究主題設定の理由

平成 23 年度より，筋道を立てて考え表現し，考えを深める学習を目指し，算数科を中心とした互いに学び合う授業づくりの研究に取り組んできた。研究を進める中で，学ぶ意欲が高まり，学習内容の定着率もよくなってきた。

そこで，今年度は全国学力・学習状況調査，長浜市統一学力調査及び本校独自調査の結果から，子供たちのつまずきを分析し，その解消に向け，指導と評価を一体化させた授業づくりを目指す。さらに『一人一人が自分の考えをもち，互いの考えを「つなぐ，かえす，広める」をキーワードとして，学び合う学習を積み上げていけば，子供一人一人の表現力や思考力が高まるであろう』という研究仮説を立て，互いに認め合い，支え合い，学び合う「授業」の創造を研究主題とし，検証に取り組む。子供一人一人が個の考えを，言葉・式・図を用いて表現し，それをお互いが筋道立てて説明する過程を通して再構成する中で学びが深まり，つまずきが解消され，見通しをもち筋道を立てて考えられる数学的な思考力，表現力が高まると考える。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	４月　全体会　研究推進委員会 ５月　研究推進委員会　全体会 授業研究会４年 ６月　研究推進委員会 授業研究会２年（調査官訪問）	９月　研究推進委員会 授業研究会３年，授業研究会１年 10月　研究推進委員会 11月　授業研究会５年， 公開研究会（調査官訪問）

	７月　研究推進委員会　全体会 ８月　研究推進委員会，調査問題検討	12月　研究推進委員会 独自調査実施

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

○全国学力・学習状況調査の分析
教材の系統性を踏まえ，全国学力・学習状況調査の結果，長浜市統一学力調査，独自調査の結果から子供のつまずきの実態を分析し，課題の共有化を図る。

○指導の焦点化
つまずきの実態を基に，系統的に指導内容や場面を焦点化し，授業の重点化を図る。

○学びの連続化を図る単元構成の工夫
課題意識が連続する学習展開の工夫と，深める場での「つなぐ」「かえす」「広める」発問を工夫することにより，言語活動を豊かにし，学び合いの学習を深め，思考力，表現力を育てる。

○明確な視点のある教材開発
つまずきの分析を基に教材研究を深め，教材の良さや特性を踏まえた発問，子供の考え方の取り上げ方を工夫することにより，子供の学びの深化を図る。

○評価場面の焦点化に基づく指導と評価の一体化
式や図，数学的言語を用いて，自分の考えを表現させるとともに，学習展開の各段階における評価の規準を具体的な子供の姿として考え，それに応じた指導の手立てを明確にすることにより，授業で学びの姿を的確に見とり，個に応じた指導を行う。

○ねらいの達成をきめ細かく検証する適用問題の開発と実践
子供の学びの状況に応じた複数の適用問題を設定し，子供の学びに合わせて選択して実施することで，きめ細かく定着状況を把握し，授業の検証を図ると共に，子供の学びが次時へとつながる工夫をする。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

①全国学力・学習状況調査，長浜市統一学力調査等の結果について，全校研究体制の下，組織的に分析することで，子供のつまずきを共有化でき，指導の焦点化が図れた。

②教材研究の視点が明確になり，つまずきの分析から指導内容の焦点化，重点化を図ったことにより，教材のもつよさや特性を生かし，子供が算数的活動の楽しさや数理的処理のよさを感じられる授業が展開できた。

③評価規準を具体的な子供の姿として設定し，それに基づいた指導の手立てを講じたことにより，一人一人の学びの見取りがきめ細やかになり，一層適切な指導や支援が行えた。自力解決の場では個々の考え方を明確に見とり、それに応じた適切な指導が行え，集団解決の場では「つなぐ」「かえす」「ひろめる」発問を適切に行うことができ，子供が課題に迫り，学び合う学習が深まり，学びの質が高まった。
今後は，学び合う場面で共通の課題の設定を工夫していく必要がある。

④適用問題を工夫し，授業の中で指導と評価の一体として位置づけることにより，授業を検証し，子供の学びを次時へとつなげることができた。

⑤全国学力・学習状況調査，長浜市統一学力調査，本校独自調査の結果を分析し，つまずきに焦点を当て，学び合いの授業を展開したことで，つまずきが解消され，学力の向上が見られた。
今後は各学年の内容のつまずきの一覧を作成し，系統立てて指導することにより一層の指導改善ができるようにしたい。

⑥自力解決の場や集団解決の場で課題を考える中で，自分の考えを図や式，言葉等を駆使して表現することにより，言語活動が活性化し，思考力や表現力の向上が見られた。

（２）研究成果の意義等

本研究を公開することで,これまで課題とされてきた単元や内容の指導方法が広まり，他校の授業改善に資することができる。特に，本研究を基に，全国学力・学習状況調査を活用したそれぞれの学校の子供たちのつまずきの解消に向けて取組が深まり，算数科への意欲や関心を高め，思考力と表現力を育てることが期待できる。また，教材研究の視点が明確になり，教師の指導力の向上を図ることができる。

（３）指定期間終了後の取組

・研究の成果を生かし，引き続きつまずきに焦点をあてた授業改善に取り組み，教師の指導力向上に努め，学力の向上を図る。また，これまで継続し進めてきた本校独自調査の研究成果を基に指導の改善を行い，学力の向上を図りたい。

・研究の過程及び成果を研究紀要として整理し，市内外の各校に公表することで，算数科のつまずきとその解消を基にした授業改善及び学力向上に寄与したい。